

平成30年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

「三八地区研修」

平成30年8月28日(火) 会場(八戸市福祉公民館 大研修室)
受講者数 24名

平成30年度生涯学習・社会教育関係職員研修講座における「三八地区研修」を8月28日(火)に八戸市福祉公民館で実施しました。

講師に、むつ市まちづくりコーディネーター ^{きくらだ} ^{しんすけ} 桜田 真佐 氏をお招きし、「地域づくりにおけるネットワーク形成」をテーマに、これまでの「イカす大畑カダル団」(以下「カダル団」)の経験を生かした取組について御講義をいただきました。

講義では、まず、「カダル団」の活動の様子について説明されました。「カダル団」は、むつ市大畑地区の活性化を目指し、2012年5月より活動を開始しました。メンバーは、僧侶(代表)をはじめ、むつ市職員(副代表)、団体職員、会社員などで、30代～40代の大畑地区出身者9名で構成されているとのこと。それぞれ別の職業なので、活動可能な曜日や時間帯などが違うことから、何かイベントなどがある際は、まずメンバーの日程を考慮し、開催日から決めることが重要であると話されました。

また、「カダル団」の活動の特長として、①年齢、加入時期などは関係なし ②みんな対等・みんなプレーヤー ③それぞれの得意分野を活かす ④ゆるやかなつながり・ネットワーク ⑤自分たちが楽しいと思える事をすると紹介されました。目指しているのは、「行政」・「志縁団体」(支援ではなく“志縁”)・「地縁団体」のプラットフォーム(受皿)になることで、「カダル団」を起点に、様々な団体と有機的なつながりを持ち、相互に活動の幅を広げることで「協働」の輪がどんどん広がっていくことだと話されました。講義の最後には、実際に取り組まれた活動事例を紹介してくださいました。

【講師：桜田 真佐 氏】



(研修の様子)



演習では、まず始めにアイスブレイクとして、15分以内という制限時間を設け、準備された乾燥パスタ、マッシュマロ、テープ、ひもを用いてタワーを作り、タワーのてっぺんに置かれたマッシュマロの高さを競う「マッシュマロチャレンジ」を行いました。受講者は、パスタのしなりとマッシュマロの重さに苦戦しながらも、協力しながら楽しく取り組みましたが、実はこの「協働作業」にコーディネーターとしての役割や資質も含まれているという意図も教えてくださいました。その後、ワークショップの進め方の説明を交えながら、「地域づくりコーディネーターのスキルアップ演習」を行い、「地域の良さ」と課題、「今後の取組」について考えることのできた充実した研修講座となりました。

1. 講義：「地域づくりにおけるネットワーク形成」

むつ市まちづくりコーディネーター 桜田 真佐 氏

(1) むつ市の課題

- ① 4市町村の合併→一体感の欠如
- ② 過疎化、高齢化が顕著
- ③ 若手、担い手不足
- ④ インフラ、公共交通機関
- ⑤ 空き家、シャッター街

※進学と同時に地元を離れていく人が多数

(2) 大畑地区

- 【過去】① かつてはイカの水揚げが県下2位
- ② 良質な青森ヒバの名産地
- ③ 本州最北端の駅
- ④ 文化度も

上位

【現在】①漁業はイカが捕れず、定置網や養殖に切り替わりつつある。③製材所はほとんど廃業 ④路線は廃止 ⑤学校は学年1クラス

(3) イカす大畑カダル団名前の由来

・人や資源を「活かし」、「いかした」大畑を「語り」そして「かだって（参加して）」欲しい。

(4) イカす大畑カダル団を起点に広がる「協働」

・薬研温泉開湯400年祭実行委員会を発足し参加したことで、活動3年目で大きな流れを生み出すこととなった。（主な構成団体：むつ市、大畑町商工会、大畑町観光協会、大畑町漁協、薬研町内会、カダル団）

・「行政」（むつ市役所、青森県下北地域県民局、むつ市まちづくりコーディネーター）との連携・助成
「志縁団体」（津軽海峡マグロ女子会、大畑まちゼミの会、大畑線キハ85動態保存会、カダルナイト実行委員会、ヤマヤレアワクナ、大畑海峡ロデオ、まさかりズム実行委員会）との連携・協働

「地縁団体」（大畑町観光協会、大畑町商工会、大畑町商工会青年部）との連携・協働

※様々な団体と有機的なつながりを持つことで、相互に活動の幅を作る。

(5) 活動事例

①「100人会議」

「観光客のおもてなしに大畑らしさを盛り込んでいこう。」「2015年むつ市大畑地区の薬研温泉が迎える開湯400年の節目をきっかけに地元を活性化しよう。」と、住民や高校生と一緒にアイデアを語るワークショップ。

※この活動を通して、町の人達の思いや課題が見えてきた。また、プレーヤーになりえる人達と出会えた。

②「コミュニティー・カフェ」

【コンセプト】・新しいつながりを生む交流拠点・誰もが主役になれる場・地域の新たな価値を生み出す。

(6) 活動するためのヒント集

- | | | |
|----------------|-------------------|------------------|
| ①ターゲットは明確に | ・どんな人に来てほしいのか | ・テーマをはっきりさせる |
| ②デザインの視点 | ・想像できないことは形にならない | |
| ③ネットワーク | ・人との出会いを大切にする | |
| ④伝統とは？ | ・伝統を言い訳にしない | ・変える勇気を持つ |
| ⑤目標（ゴール）設定 | ・期日や開催日を先に決めてしまう | ・やれる事、やれない事の取捨選択 |
| ⑥思考停止になっていないか？ | ・できない理由から探していないか？ | ・自分の事ばかり言っていないか？ |

2. 演習：「地域づくりコーディネーターのスキルアップ演習」

演習では、アイスブレイクの後、受講者各人が付箋に「地域の魅力」を書き出し、模造紙を使って付箋をグルーピングした後、それに関連する「地域活動での課題」、「課題解決に向けてのアイデア」の順に話し合い、最後にグループ毎に発表しました。少子高齢化や空き家問題など、現在抱える地域の課題に対し「空き屋カフェの運営」や高齢者を講師とした「伝統工芸講座」など様々な意見が出されました。

(演習の様子)



3. 受講者の感想

- ・「協働」の原点を感じる事ができました。まずは自分たちが楽しむことが大切だと感じました。
- ・高齢者がよく施設を利用するので、高齢者が子や孫に伝承するようなことをしてみようとカフェの事例を見て思いました。